

授業科目 身体障害作業療法学Ⅰ

【担当教員名】 能登 真一		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 脳血管障害や頭部外傷に代表される脳疾患および脊髄損傷などの脊髄疾患に対して作業療法を実施するために、その病態を理解した上で、作業療法の目的、治療戦略やその実際の方法を学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. さまざまな疾患の病態と臨床経過を述べることができる 2. 脳血管障害に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる 3. 頭部外傷や脳腫瘍に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる 4. 脊髄損傷における作業療法アプローチの目的について列記することができる 5. 脳血管障害に対する作業療法の実際を説明することができる 6. 脊髄損傷に対する作業療法の実際を説明することができる 7. 様々な疾患や症状に関心を持ち、療法士としてそれらの評価や治療に役立とうとする意欲や態度を身につける					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	イントロダクション			1	講義
2	画像診断, 生化学検査の診方			1, 2	講義
3	脳血管障害の病態とその臨床経過 その1 片麻痺とその予後			1, 2	講義
4	脳血管障害の病態とその臨床経過 その2 その他合併症状			1, 3	講義
5	頭部外傷や脳腫瘍の病態とその臨床経過			2, 5	講義
6	脳疾患に対する作業療法の実際 その1 基本動作			2, 5	講義
7	脳疾患に対する作業療法の実際 その2 麻痺側上肢			2, 5	講義
8	脳疾患に対する作業療法の実際 その3 感覚障害			2, 5	講義
9	脳疾患に対する作業療法の実際 その4 移動手段			2, 5	講義
10	脳疾患に対する作業療法の実際 その5 ADL			2, 5	講義
11	脊髄損傷の病態とその臨床経過 対麻痺とその予後, その他合併症			1, 4	講義
12	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その1 上肢機能			1, 4	講義
13	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その2 ADL			4, 6	講義
14	評価計画の立案, ICF を用いた問題点の整理の仕方, 治療計画の立案			4, 6	講義, 演習
15	まとめ			1 ~ 6	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準作業療法学 身体機能作業療法学 第2版	岩崎 テル子 編	医学書院	2011・4,700円+税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席約10%+期末試験約80%+態度約10%によって総合的に判定する			【履修上の留意点】		